

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

|         |                |            |  |
|---------|----------------|------------|--|
| 事業所番号   | 1293100028     |            |  |
| 法人名     | 社会福祉法人 天祐会     |            |  |
| 事業所名    | グループホーム天羽苑     |            |  |
| 所在地     | 千葉県富津市不入斗224-1 |            |  |
| 自己評価作成日 | 令和5年3月6日       | 評価結果市町村受理日 |  |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

|          |   |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | <a href="http://www.tenyuukai.jp/amahaen_main.html">http://www.tenyuukai.jp/amahaen_main.html</a> |
|----------|---|

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

|       |                              |  |  |
|-------|------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人NPO共生               |  |  |
| 所在地   | 〒275-0001 千葉県習志野市東習志野3-11-15 |  |  |
| 訪問調査日 | 令和5年3月17日                    |  |  |

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

都会にはないのびのびとした自然の環境の中で、利用者様は毎日時間に追われることなくのんびりと暮らしています。  
毎日レクリエーションで体を動かしたり、歌を歌ったりと室内や中庭で出来る活動を重点に過ごしております。  
利用者様第一に考えた支援をさせていただき、安心して暮らしていただけるようなサービスを心がけております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

「ご利用者様第一主義」を理念とし、①利用者は皆さん年長なので、友達言葉を使用せず丁寧な言葉使い②耳の遠い方には大声を出さない様に近寄ってしゃべる③丁寧にゆっくりささやくように気を付ける、を常に心掛け、その方の立場になって考えるように努めている。声掛けは、本人の前面に立ち、同じ目線で話しかける。また、言葉を短めに、短い単語を使って理解を深め合うように努めている。ホームでは医療行為が出来ない事から、看取りはしない事になっている。介護度4を基準として、法人内の特養や他の老健等に移ってもらうような形を取っているため、利用者は皆さん比較的元気な方が多い。普段の生活の中で、自分の事は自分でしてもらうことを主眼に、食事の準備も後片付けも出来ることをしてもらっている。また、独居生活をしていた方は、対人関係が非常に難しいという傾向にあることから、日中は皆さんと一緒に10分間歩行をしたり、掃除を手伝ってもらう等仲間と一緒に時間を過ごしてもらっている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

| 項目 |  | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印 |   | 項目 |   | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印 |   |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる<br>(参考項目:23,24,25)       | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者の<br>2. 利用者の2/3くらいの<br>3. 利用者の1/3くらいの<br>4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて<br>(参考項目:9,10,19)     | ○                     | 1. ほぼ全ての家族と<br>2. 家族の2/3くらいと<br>3. 家族の1/3くらいと<br>4. ほとんどできていない    |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある<br>(参考項目:18,38)             | ○                     | 1. 毎日ある<br>2. 数日に1回程度ある<br>3. たまにある<br>4. ほとんどない                  | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている<br>(参考項目:2,20)                     | ○                     | 1. ほぼ毎日のように<br>2. 数日に1回程度<br>3. たまに<br>4. ほとんどない                  |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている<br>(参考項目:38)                   | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている<br>(参考項目:4) | ○                     | 1. 大いに増えている<br>2. 少しずつ増えている<br>3. あまり増えていない<br>4. 全くない            |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている<br>(参考項目:36,37)    | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 66 | 職員は、活き活きと働けている<br>(参考項目:11,12)                                      | ○                     | 1. ほぼ全ての職員が<br>2. 職員の2/3くらいが<br>3. 職員の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない       |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている<br>(参考項目:49)                  | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う                                       | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている<br>(参考項目:30,31)         | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う                                   | ○                     | 1. ほぼ全ての家族等が<br>2. 家族等の2/3くらいが<br>3. 家族等の1/3くらいが<br>4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている<br>(参考項目:28) | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |    |   |                       |   |

## 1 自己評価及び外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

| 自己                 | 外部  | 項目  | 自己評価   |   | 外部評価              |  |
|--------------------|-----|---|--|---|-------------------|--|
|                    |     |   | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |  |
| <b>I. 理念に基づく運営</b> |     |   |  |   |                   |  |
| 1                  | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている                            | 職員会議時に全員で唱和をしており、常に意識を持って業務に取り組んでいる。                                 | 「ご利用者様第一主義」を理念とし、①利用者は皆さん年長なので、友達言葉を使用せず丁寧な言葉使い②耳の遠い方には大声を出さない様に近寄ってしゃべる③丁寧にゆっくりと囁くように気を付ける、を常に心掛け、その方の立場になって考えるように努めている。コロナでマスクを付けている影響か、耳の遠い方が声を出さなくなり、ボードを使用して平仮名で会話をしている。 |                   |  |
| 2                  | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している                            | 社会福祉協議会や地区の懇談会等に出席し、奉仕作業等には参加している。                                   | 地域の一人として、社会福祉協議会や地域会議に参加したり、地域の草刈り、神社の掃除などに参加して交流を深めている。時々警察の方や民生委員の方々が立ち寄ってくれて、ポスターを持って来てくれたりして情報交換を行っている。   |                   |  |
| 3                  |     | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている                          | 地区の懇談会や、運営会議等で認知症の方の支援方法や説明をしている。                                    |   |                   |  |
| 4                  | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている       | コロナ禍で毎回利用者様の状況や行事を文書にて報告している。市の職員や地区役員等からの意見や要望を参考にし、サービス向上に取り組んでいる。 | コロナ禍で対面の運営推進会議を自粛しており、内部で行い、入居状況、運営状況、行事報告等を記載した報告書を、市の介護福祉課、警察署、社福、区長、民生委員、薬剤師及び全ての家族等へ送付している。民生委員から困った人がいるとの相談があると、地域包括と話し合ったりしている。   |                   |  |
| 5                  | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる                | 生活保護者が3名入居されており、担当職員と生活状況の報告を情報交換している。運営会議にも市の職員の方が参加され、意見や助言を頂いている。 | ケアマネや管理者が区分変更の申請や各種の報告等で市役所へ行き、相談したり情報交換を行っている。また、地域包括に寄り、空室相談等を行ったりもしている。生活保護者に関しては、社会福祉課で相談したり、入苑の際に一緒に付き添ってくれたりしている。   |                   |  |
| 6                  | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束廃止の研修に参加している。職員会議時に、身体拘束に関する勉強会や、検討会を行っている。                      | 職員会議の中で2ヶ月に一度は身体拘束防止対策委員会を開催し、3大ロックについて事例を挙げて検証している。中でも普段無意識のうちに言っている、スピーチロックに対してが多く、拘束とはどの様なものが当てはまるか等についても話し合っている。  |                   |  |
| 7                  |     | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている       | 虐待防止の研修会に参加している。職員会議時に、虐待防止に関する勉強会を行っている。                            |   |                   |  |

| 自己 | 外部  | 項目   | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
|    |     |  | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8  |     | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している    | 勉強会に取り入れている。オンライン研修に参加し学ぶ機会を持つ。                                     |   |                   |
| 9  |     | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている                         | 契約時に、口頭で説明をし、書面でも承諾を頂いている。  |   |                   |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                     | ご家族が来苑した時には、日頃の様子を報告しご家族との話す機会を設けている。コロナ禍では電話連絡が多くなっている。            | 毎月の請求書と一緒に写真を送っていたが、人手が足りなく現在は面会の時に見せて希望があれば渡すようにしている。天羽苑通信はカラーで出来ているため、利用者の日常の様子等が良くわかり、好評である。面会に来た時など、要望等を聞くように努めている。墓参りに連れて行きたいとか、友人は面会できるのか等の質問がある。 |                   |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている                                      | 職員会議や日常の業務の中で、意見を聞いている。問題点や改善策を会議で話し合う。                             | 職員の意見・提案等を聞く機会としては、職員会議や個別面談等がある。職員会議では、自立支援のためにも、出来ることはやってみよう方が良い。また、ぬり絵が好きの方が多く、一人や二人だったら全員でやってみよう方が良いのではないかな等の提案も出る。個別面談は年2回行い、目標設定に対する振り返り等を行っている。  |                   |
| 12 |     | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている      | 環境の整備に関しては、毎日巡回し、確認し、夜勤の巡回時の様子で把握している。職員には、面談時や日常の会話の中で意見や要望を聞いている。 |   |                   |
| 13 |     | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている         | 個々に参加したい研修に参加できず、苑内での勉強会を設けて行っている。(新型コロナ感染対策として外出自粛の為、オンラインを利用)     |   |                   |
| 14 |     | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 外部研修や勉強会、講演会等に参加出来ていない。今後オンラインを活用して交流を深めていきたい。                      |   |                   |

| 自己                           | 外部  | 項目   | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|------------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
|                              |     |  | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> |     |  |   |  |                   |
| 15                           |     | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 事前に見学や体験入居をして頂き、本人との面談を行う中で不安な事や要望をお聞きし、コミュニケーションをとっている。            |  |                   |
| 16                           |     | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている            | 見学や体験入居後に必ずご家族に状況を報告している。面会時にも近況報告をして要望や意見をお聞きしている。                 |  |                   |
| 17                           |     | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている        | ご本人の身体状況や精神状態を把握し、ご家族の意向を聞き取りより良い支援が出来る様に努めている。                     |  |                   |
| 18                           |     | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                        | 掃除機掛け、洗濯物畳み、ゴミだし等を分担して手伝って頂いている。                                    |  |                   |
| 19                           |     | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている         | ご家族と職員とで一緒に利用者様を支えるように連絡を密にしている。                                    |  |                   |
| 20                           | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている                     | ご家族には面会や外出、外泊などの機会を作って頂けるようお願いしているが、現在はコロナ禍で外出、面会に制限があり難しい状況が続いている。 | コロナ禍で面会や外出が難しい状況ではあるが、出来るだけドライブをしながら外出をするように努めている。近くの神社へ初詣に出かけて地域の方々と挨拶を交わしたり、佐久間ダムへ花見に行ったり、長狭街道へ紅葉ドライブに行ったりして落ち葉を拾って押し葉をして皆で楽しんだ。 |                   |
| 21                           |     | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている                 | テレビ前に寛げる様にソファを置いている事もあり利用者様が会話し楽しまれている。時々席替えをし、利用者同士のコミュニケーションを図る。  |  |                   |

| 自己                                 | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
|                                    |      |  | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22                                 |      | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている                    | 近くの施設に入所となる時は他の施設と電話連絡をさせて頂き、様子を伺うようになっている。                |  |                   |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |      |  |  |  |                   |
| 23                                 | (9)  | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している   | 担当者会議を行い、ご本人の意向や希望、要望をお聞きし確認している。                          | 担当者会議の中で、入浴の順番でたまには一番最初に入りたいという利用者からの要望があったことが報告された。午前中の最後の入浴では昼食までの時間があまりなく、身づくろいするのが大変だということのようであった。その後は、入浴の順番を最初にするようにしている。独居であった人で、テレビを消すと怒り出すことがあった。テレビの画面が消えることで孤独感に陥るらしいことが分かり、職員はこまめな声掛けを通してコミュニケーションを図ることにした。 |                   |
| 24                                 |      | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                                       | ご家族からの情報や日常会話の中から今までの生活内容を把握し、混乱の無い様に支援し継続している。            |  |                   |
| 25                                 |      | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている   | 身体面、精神面の状況を日々観察し把握に努めている。                                  |  |                   |
| 26                                 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ケース会議にてその都度、職員から様子や意見を聞き確認し、問題点は、解決できる様話し合う。               | 独居生活をしてきた人は、対人関係が非常に難しいという傾向にあった。このことから、日中は皆と一緒に10分間歩行をしたり、掃除を手伝ってもらう等仲間と一緒に時間を過ごしてもらうようなケアプランの作成をした。通常は利用者に変化がなく、家族からの要望もなければケアプランの変更はしていない。当人に変化の兆しが見えた時にはケース会議を開き、家族に出席してもらうこともある。                                  |                   |
| 27                                 |      | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている                        | 利用者様の個別のケース記録に、日中や夜間の様子を記録している。申し送り後も再度変わった事や気づいた事を見直している。 |  |                   |
| 28                                 |      | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる             | モニタリングを通して変化や状況に合わせてご本人の希望に合う様支援している。                      |  |                   |

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|----|------|---|--|---|-------------------|
|    |      |   | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 |      | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している                                      | 地域の行事が中止となりほとんど交流ができなかった。  |   |                   |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                                  | 居宅療養管理指導の契約を結ぶ事で主治医及び薬剤師との相談や健康管理がスムーズにできている。                          | 入居に当たって、以前からのかかりつけ医からホームの提携医に切り替えて頂き、かかりつけ医から情報提供書をもらい提携医に提出している。その後は、月2回の往診で健康管理が行われている。内科以外に専門医にかかる必要性があれば、主治医より紹介状を書いてもらい、職員が付き添いで通院する場合は有料という形を取っている。         |                   |
| 31 |      | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している                          | 職員は利用者様の身体、精神的状況を把握し変化があれば早急に対応し看護師への相談にてご家族様に連絡するように努めている。            |   |                   |
| 32 |      | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院中は様子を電話にてお聞きし、ソーシャルワーカーとも話し合い今後の生活を決めている。バイタルリンクシステムを利用して病院との情報共有する。 |   |                   |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる  | 入居時に説明はしている。急激な変化や医療的問題が見られる時は、話し合いの場を設け、今後の方向性を考え共有して取り組んでいる。         | ホームでは医療行為ができないことから、看取りはしないことにしている。介護度4を基準として家族と相談の上、法人内の特別養護老人ホームあるいは法人以外の介護老人保健施設(老健)等に移るような形を取っている。重度化が進む前に、家族とは情報交換の上利用者の健康状態を確認し、主治医とも相談して方向性を見出していくように努めている。 |                   |
| 34 |      | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている  | 緊急時の対応マニュアルを作成して、職員の目につく場所に掲示している。又緊急時の研修も行っている。                       |   |                   |
| 35 | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている  | 火災、自信、災害対策マニュアルが作成してある。又、自主訓練も行っている。                                   | 自主訓練として、7月は火災、11月は地震、3月は夜間での火災を想定した避難訓練が実施された。コロナ以前は消防署立会いの訓練であったが、現在は自主訓練で行われている。昨年よりの懸案事項のBCPIは現在作成中であり、来年度の完成を目指している。  |                   |

| 自己                               | 外部   | 項目   | 外部評価   |   |  |
|----------------------------------|------|--|--|---|--|
|                                  |      |  | 自己評価<br>実践状況   | 実践状況<br>次のステップに向けて期待したい内容   |  |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |      |  |  |   |  |
| 36                               | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている                   | 優しい声掛けに気を配っている。勉強会などで利用者にわかりやすい声掛け、又は受容的な姿勢で接している。                           | 声掛けは、ややもすると大きな声になりがちである。本人を尊重することからも声掛けは本人の前に立って、同じ視線で話しかけることに注意している。横から寄り添うような声掛けは、びっくりしてしまうことが多く好ましくないということが分かり相手の正面からの声掛けにしている。声掛けは言葉を短めに、短い単語を使って理解を深め合うよう努めている。  |  |
| 37                               |      | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている                     | 食事のメニューの希望をお聞きし取り入れている。外出自粛の中、テイクアウトの機会も増え、食べたい物をお聞きし、食べて頂く。                 |   |  |
| 38                               |      | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 家庭的なサービスが提供出来るように、ご本人主体のペースを大切にし自由に過ごせる様に支援している。                             |   |  |
| 39                               |      | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している                                  | 生活習慣は変化しない様ご本人の希望に沿えるように支援している。  |   |  |
| 40                               | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている     | 個々の形態に合わせて提供している。テーブル拭き、配膳や下膳も個々に行っている。                                      | 入居時に普段の食事はどうであったかを確認している。食事時間が長くなる人には、それなりのペースで食べてもらうことに注意している。便秘がちの人には、食事を少し軟らかめにするとかの工夫をしている。普段の生活の中で、自分のことは自分でしてもらうことを主眼に、食事の準備も後片付けも出来ることをしてもらっている。その背景として、「やらなくなってしまったら、本人は何も分からなくなってしまう」ということを職員が理解しているからである。 |  |
| 41                               |      | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている          | おやつ時に希望のある方は好きな食べ物、飲み物をお出ししている。起床時には、個々に配達されるヤクルトを摂取している。月に一度体重測定を行い健康管理を行う。 |   |  |
| 42                               |      | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている                   | 起床時の朝、夕と行い見守り確認を行っている。又義歯を使用している方は夜間洗浄をしている。                                 |   |  |

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|----|------|---|---|--|-------------------|
|    |      |   | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている                              | 個別の排泄パターンを作成して確認し声掛けやトイレ誘導を行い、自立または現状維持できる様に支援している。             | 個人別の排泄管理表で、職員は状況を確認しながら時間をみてトイレ誘導をすることにして。排泄管理表には、排尿は○、排泄は△といった形で表示され一目で分かるようになっている。排泄をスムーズにしてもらうためにも、午後2時から1時間位体操やゲームで下肢訓練をして体力維持に努めている。  |                   |
| 44 |      | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる  | 排便チェックも個々に行い、排便の状態を把握し、主治医や薬剤師に相談している。                          |  |                   |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている                             | 可能な限りご本人の希望を可能な限りお聞きし、順番や希望を聞きながら行っている。入浴の無い日曜日は、足浴(冬のみ)を行っている。 | 入浴の順番で最初を希望する人には、当日の最初の湯にあてている。1日の入浴は4人としており、一人が入浴を終えると新しい湯に入れ替え、常にきれいな湯に入ってもらおう心掛けている。脱衣から入浴、入浴後の着替えまで本人のペースを尊重し、職員はあまり手を出さないようにし本人のペースを崩さないことを重視した入浴支援に努めている。                          |                   |
| 46 |      | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している   | それぞれのペースや生活パターンにあわせて休息出来るような環境づくりを心掛けている。                       |  |                   |
| 47 |      | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている  | 個別に個人ファイルを作成して薬手帳を管理している。又薬剤師からもアドバイスを受けている。                    |  |                   |
| 48 |      | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている                             | 個々に居室や食堂の清掃や共有スペースの掃除を手伝って頂いている。自粛の中での楽しみを探しながら過ごしている。          |  |                   |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 個別対応の外出支援が出来ていない状況だが、今後ご家族からの希望をお聞きしながら対応したい。                   | コロナ禍により外出支援もままならない状況が続いているが、昨年3月は佐久間ダムへの桜見物、11月には長狭街道での紅葉見物にドライブで出掛けた。利用者からは、また行きたいという要望も出ている。正月に家族が家に日帰りで連れて行ったこともあった。日常の散歩はなかなか出来なかったが、最近ではホーム周辺の散歩もし始め陽気も良くなってきており、散歩の機会を増やしたいと考えている。 |                   |



| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|----|------|--|--|--|-------------------|
|    |      |  | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 |      | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している  | お預かりしているお小遣いの中から、おやつ時に販売機にて好きな飲料を購入している。外出の際には好きな物を購入して頂く。                 |  |                   |
| 51 |      | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている   | ご本人がご家族に連絡したい時は、事務所に来て電話をかける支援をしている。ハガキや手紙が届いた時は、ご本人にお渡ししている。              |  |                   |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 外出時、ボランティア来苑時等の際に撮った写真をホール内に掲示している。クリスマスやお正月等の飾りつけを行って、季節感を取り入れている。        | 訪問調査時はひな祭りが終わった時期だったが、ホールにはお雛様が飾られていた。通常は行事やドライブなどでの写真が飾られており、それを見て「私、こんなことをしたのかしら」と利用者同士の会話が弾んでいることもしばしばである。リビングでは、テレビを見ながら寛ぐことができるようにソファが置かれていて、ゆっくりとテレビを見たり本棚からファイルを取り出して自分で描いたぬり絵を見て成果を確認している姿も見掛け |                   |
| 53 |      | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている  | 共有スペースで過ごす事が多い為、テレビを囲んで利用者同士のんびりと過ごしている。コロナ禍で塗り絵や簡単な計算、漢字ドリルなどを希望者のみ行っている。 |  |                   |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている  | 家で使用していた物やご家族が持ってきた物を自由に置いたり、使用している。                                       | 馴染みの物の持ち込みは、男性よりも女性の方が多いようである。女性はご主人の写真、飼っていた犬や猫の写真、友人からの手紙等多種多様である。馴染みの物の持ち込みで、それを材料にしてあの頃はと昔を思い起こして頂き、記憶を維持することに役立っている。居室内では自分の場所で、自分の時間を過ごすことが出来るような支援に気を付けている。                                     |                   |
| 55 |      | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している   | 出来る事、出来ない事を見極め個々の能力に合わせて意欲、目標に繋げる様に心がけている。                                 |  |                   |